

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

11月報

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ 熊本からの報告1件(1歳)のみでした。

小児科定点

（全体傾向）

報告総数1,269件(前月比1.07、前年同月比0.25)でした。今年3月以後は、1,000件台の報告が続いています。前月から大幅に増加した疾患は、RSウイルス感染症の1件から13件で、前月に比べて他はやや増加か変わらない報告数です。その中では、ヘルパンギーナが、前月比で0.4と減少しています。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症 : 報告数13件(前月比13.0、前年同月比0.3)です。5月から10月までは、2件の報告でしたので、11月に急に増加しています。水俣8件(定点あたり4.0)、人吉5件(同1.67)の二地区のみの報告でした。年齢は、2歳を除く0歳～3歳の報告でした。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数49件(前月比1.0、前年同月比0.4)です。5月以降50件前後の報告が続いています。水俣(報告数11件、定点あたり5.50)、宇城(同8件、同2.00)、熊本(同19件、同1.19)、それに菊池6件、有明4件、八代1件の報告です。年齢も1歳を中心とし、0歳から4歳まで報告があります。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数124件(前月比0.8、前年同月比0.3)です。5月より100件前後の報告です。例年であれば11月には増加に転じますが増加傾向は見られないようです。菊池35件(定点あたり7.0)、宇城13件(同3.25)、人吉8件(同2.67)、御船8件(同2.67)の報告ですが、山鹿・阿蘇を除き県下から報告があります。幅広い年齢層からの報告です。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数623件(前月比1.3、前年同月比0.3)と3月以降は500件前後で、例年の半分程度の報告が続いています。菊池226件(定点あたり45.20)、有明94件(同18.80)、山鹿33件(同16.50)が多いようですが、水俣0件と阿蘇5件を除けば、各地区から二桁の報告があります。年齢別でも各年齢層で二桁の報告があります。例年通りであれば増加する時期に入っていますが、今のところ、その傾向はないようです。
5. 水痘 : 報告数37件(前月比1.0、前年同月比0.8)と、7月以降40件前後で推移しています。報告は、阿蘇・御船を除いてほぼ全県下から一桁台あります。年齢別でも、定期化された2014年前後での大きな報告数の変化は見られません。ここ数年では低い水準で推移しています。特に多い地区はありませんでした。
6. 手足口病 : 報告数96件(前月比1.7、前年同月比0.2)と、やや増加しているようですが、発生は例年と同様に低水準です。御船の18件(定点あたり6.0)が目立ちます。次に水俣7件(同3.50)、熊本52件(同3.25)に多いようです。年齢も1～2歳にピークがあります。
7. 伝染性紅斑 : 報告数4件(前月比0.8、前年同月比0.0)です。昨年秋より増加して今年に入り減少してきましたが、6月以降は一桁の発生数です。熊本2件、菊池1件、水俣1件です。いずれも2歳以下でした。
8. 突発性発疹 : 報告数147件(前月比0.8、前年同月比1.1)と、他の疾患に比べて例年同様の推移です。有明20件(同4.00)、菊池の43件(定点あたり8.60)、熊本48件(同3.00)に多いようですが、阿蘇を除き県下各地から報告があります。5歳以下からの報告でした。

9. ヘルパンギーナ : 報告数18件(前月比0.4、前年同月比0.2)で、10月以降低水準で例年同様の動きです。天草6件(定点あたり1.50)、菊池5件(同1.00)有明3件(同0.60)、熊本3件(同0.19)、宇城1件(同0.25)から報告がありました。1~3歳と5歳の報告です。
10. 流行性耳下腺炎 : 報告数14件(前月比0.8、前年同月比1.3)と、昨年夏から秋にかけ増加していましたが、昨年の冬以降は低い水準となっています。ただ、ほぼ県下から数件ずつの報告があります。八代・宇城3件(定点あたり0.75)、天草2件(同0.50)、菊池2件(同0.40)、御船1件(同0.33)、熊本2件(同0.13)でした。0歳児の報告はありませんが、2歳から9歳までの報告です。病原体定点ですので、今年になり、耳下腺炎/顎下腺炎から10検体を保環研に提出していますが、11月末までにはMumps virusの検出報告はありませんでした。また耳下腺炎の半数では、1回ではありますが、予防接種を受けておられました。最近は、1歳児に接種される方も増えてきています。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数15件(前月比0.7、前年同月0.3)と減少しています。熊本15件のみの報告です。年齢別では20~29歳、60~69歳に小さい山が見られますが、14歳以下の発症はありません。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 :
報告数48件(前月比0.7、前年同月比1.2)で、前月比減少、前年同月とは微増でした。男女別は、男性に36件、女性12件と男性に多く見られました。年齢別では、男性は20~40歳に幅広く分布し、女性も15~34歳に集中していました。地区別は、熊本市が42件と圧倒的に多く、次いで宇城に4件、御船が女性のみ2件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 :
報告数18件(前月比1.5、前年同月比0.7)でした。男女別は、男性10件、女性8件でした。年齢別では、50代が4例、20代、30代前半が3例、30代、50代後半が2例、男性は30代後半以降、女性は20~30歳に集中していました。地区別は、熊本が11件、宇城、八代が2件、菊池、御船、有明が1件でした。
3. 尖圭コンジローマ :
報告数は12件(前月比、前年同月比ともに1.3)で、前月比、前年同月比、いずれも増加していました。男女別では、男性7件、女性5件でした。年齢別では、20代後半を除き、10代から40代まで分布しておりました。地区別は、熊本が9件、次いで菊池、御船、宇城が各1件でした。
4. 淋菌感染症 :
報告数は31件(前月比1.6、前年同月比2.4)で、前月比、前年同月比いずれも増加していました。男女別では、男性27件、女性4件でした。年齢別では、男性が20~60歳と幅広く見られており、女性は20代から30代に集中しておりました。地区別は、熊本25件と圧倒的に多く、次いで八代、有明が各3件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：
報告数12件（前月比0.6、前年同月比0.6）でした。8件（67%）が70歳以上でした。乳幼児では1～4歳が1件です。阿蘇（2件、定点あたり2.0）が多くなっています。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：
報告数3件（前月比1.0、前年同月比0.5）でした。熊本、人吉、天草が各1件です。70歳以上が2件、1～4歳が1件です。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：
報告数0件（前月比±0、前年同月比±0）でした。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎： 報告数2件（前月比2.0、前年同月比±0）でした。熊本より40～54歳で2件です。
2. 無菌性髄膜炎： 報告数1件（前月比±0、前年同月比1.0）でした。熊本より15～19歳で1件です。
3. マイコプラズマ肺炎： 報告数1件（前月比±0、前年同月比0.1）でした。5月以降1件以下で鎮静しています。
4. クラミジア肺炎： 報告数0件（前月比±0、前年同月比±0）でした。
5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：
報告数0件（前月比±0、前年同月比±0）でした。

届け出対象感染症

1類感染症	： 報告はありませんでした。	
2類感染症	： 結核	21件
3類感染症	： 報告はありませんでした。	
4類感染症	： つつが虫病	8件
	レジオネラ症	6件
	重症熱性血小板減少症候群	1件
	日本紅斑熱	1件
5類感染症	： ウイルス性肝炎	1件
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2件
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1件
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件
	後天性免疫不全症候群	1件
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
	水痘（入院例）	1件
	梅毒	10件
	百日咳	8件
指定感染症	： 新型コロナウイルス感染症	218件